

令和4年度 基幹型地域ケア会議 報告

日 時：令和5年2月22日（水）午後1時30分～午後3時30分

会 場：健康福祉事務センター2階 第3・4会議室

出席者：小平市民生委員児童委員協議会、小平ケアマネ連絡会、第2層協議会、白梅学園大学
小平福祉園、未来、地域生活支援センターあさやけ、こだいら生活相談支援センター
小平市子ども家庭部子育て支援課、小平市健康福祉部障がい者支援課
小平市健康福祉部高齢者支援課（オブザーバー含む）小平市地域包括支援センター

1 今回のテーマ

地域のつながりの中で、自分たちでできることを考えてみませんか

～だれもが担い手・お互いに支えあう地域を目指して～

現在、小平市生活支援体制整備事業等で、いつまでも安心して住み続けられる地域を目指して、元気高齢者を中心に地域づくりの活動をしている。しかし、支えあいのある地域づくりを進めていく中で、地域活動は高齢者のみではまかないきれない部分があり、高齢者以外の世代や他分野のマンパワーが必要であることが分かってきた。また、小平市第四期地域保健計画の基本理念に「だれもが担い手、お互いに支えあいながら、安心して暮らせる地域共生社会」が掲げられている。高齢者が一方的に助けられる側になるのではなく、活動内容によっては助ける側になることも考えられる。

そのため、まずは、小平市の高齢者施策の取り組みや現状を高齢者以外の世代の方や他分野の方たちに知ってもらい、お互いに「助けたい・助けられたい」という関係を目指し、双方にできることを確認し、地域づくりを共に行っていくネットワークの構築を図ることを目的に開催した。

2 内容・意見（抜粋）

テーマ1 各々が現在、取り組んでいる地域の支えあい活動を知る

- ・社会参加型就労支援（農園作業）
- ・外での活動（公園でのカフェ、音楽など）
- ・お弁当の配達や廃品回収等を通した高齢者の見守り
- ・一緒に活動の場へ行くなどの支えあい
- ・世代間交流、親子交流、大学生の活動参加促進
- ・見守りボランティアの発掘
- ・行事やイベント、物品の販売等を通した地域との関わり、障がい理解の啓発
- ・誰でも食堂を開催し、高校生が新たにスタッフとして加わった
- ・高齢者宅を訪問した際に把握した引きこもりの方を支援者へつなげる
- ・遊具を高齢者の方に作ってもらい、報酬を払う
- ・子どもサポーターとして高齢者が活躍

テーマ2 今後、取り組んでみたいと考えている地域の支えあい活動を共有する

- ・気軽にちょっと集まれる場の立ち上げ
- ・ちょっとしたサービスの支援
- ・高齢者とペットの課題解決
- ・引きこもりの支援（制度の狭間の支援）
- ・廃材を活用した遊具の製作（高齢者や障がい者の方へ依頼など）
- ・誰でも参加できる居場所・多世代交流の場
- ・顔の見える関係づくり

テーマ3 テーマ2の活動を実現するために「あったらいいな」と思う、取組みや仕組みを考える

- ・高齢化にともない、ペットに関して困っていること（例：ご飯の準備や散歩等）と手助けできる人とのマッチング
- ・見守りが必要な方を把握して、見守りができる人とのマッチング
- ・いきなり人と人をマッチングすることはハードルが高いと考えられるため、インターネット上の掲示板を使い、情報を発信していく
- ・介護予防リーダーや認知症支援リーダー、介護予防見守りボランティアに協力してもらう
- ・学生や子どもに参加してもらうために、大学や小中学校、学童に協力の依頼をする
- ・若い世代に自治会活動（自治会への加入や地域のお祭り等のイベント）へ参画してもらう
- ・地域に大学生を呼び込むために、自治会活動に参加することを条件にアパート賃料を安くする等、参加しやすい環境整備

3 まとめ

さまざま意見をいただきました。本日の会議は、高齢者施策の取組みや現状を高齢者以外の世代の方や他分野の方たちに知ってもらい、お互いに「助けたい・助けられたい」という関係を目指し、地域づくりを共に行っていくネットワークの構築を図ることを目的に開催した。今回の会議の成果として、高齢者施策の取組みや現状を他世代の方に知ってもらうことができた。そして、世代の垣根を超えて、双方に地域の中で取組むことができそうな提案や内容を共有することができた。しかし、世代を超えた地域づくりの実現に向けては、時間を要するため今後も継続して協議していく必要があると感じた。その際は本日、参加いただいたメンバーにもご協力をお願いしたい。本日の意見を参考に新たな施策や事業を検討していく。

4 今後の取組みについて

（1）若い世代へのアプローチの強化

現在、高齢者のみで居場所を運営している団体が多くあるが、運営準備の身体的負担や後継者問題等の課題が生じている。そのため、持続可能な支えあいのある地域づくりを構築していくためには、若い世代の方の力が必要になると考えられる。これまでは、事業所単位や限られた地域のみで大学や保育園等と連携を取っていたが、今後は市全体として、小平市生活支援体制整備事業の周知啓発も含め、市内にある小中学校や保育園、幼稚園等に働きかけ、地域づくりの協力者を増やしていく必要がある。

（2）助け合い活動のマッチングの検討

今後、高齢者が増えることに比例し、身近な日常生活に困りごとを感じる人が増えることが想定される（例：ペットのえさやり・散歩、薬の受け取り、買い物）。そのような状況になった際、ちょっとした活動や生活支援を行うことができる人を事前に把握しておくことで、お住まいの地域の中で支えあい活動を推進することができる。そのため、高齢者世代に限定せず、地域の中で支え手側になり得る人材を発掘し、マッチングの実施方法について市と地域包括支援センターで検討していく必要がある。

（3）制度の垣根を超えた交流の場づくり

これまで立ち上げた居場所は、高齢者が対象となるところが主であった。しかし、地域の中には高齢者以外の世代の方でも居場所を希望している方がいることが分かった。学生をはじめとする若い人たちが世話人、障がいのある方や高齢者は参加者と決めず、誰もが世話人、誰もが参加者になれるような居場所を増やすことで、互いに助け合える関係につながると考えられる。